



File 7

【 高等学校教諭(福祉科) 】

平成 29 年度採用 8年目
県南地区(小山市) 勤務

○ 転職を考えた理由

私自身は看護師として再就職する予定でいました。就職先の内定を頂いていた時に、以前勤務していた同僚の方から「高校で看護師の免許をもっている人を探している。今、勤務していないなら高校生に教えるのはどうか。」と連絡がきたのがきっかけです。その同僚の方は、義理のお兄様が校長先生をされており、声をかけてくださいました。病院で勤務していた時は、臨床指導者や主任看護師、日本看護学会等に論文を発表するなど看護研究にも積極的に取り組んでいたため、教員に向いているのではないかという理由で私を推薦してくれたようです。高校に福祉科があることは知りませんでした。教員という職業に幼少期からあこがれていたことや家族の後押しもあり、教員の道に進むことに決めました。



○ 民間での経験が生きていること



前職は総合病院で、公務員の看護師として勤務していました。そのため、公務員に求める資質や能力等については、理解していました。

看護師時代もそうでしたが、常に自己研鑽に努めるという点は、以前と変わっていないと思っています。看護師時代は、臨床指導者として看護学生に指導することもあり、指導する内容をプリントにしたり、私以外の看護師も指導できるようマニュアルを作成したりと、どうしたら相手に理解してもらえるかを考えながら行動していたことは、今に生かされていると思っています。

○ 教員のやりがい・魅力

私は専門職である看護師として、約 18 年の経験があるため、介護福祉士を養成する福祉科においては、「医療的ケア」の内容について自信をもって指導できます。また、介護職員初任者研修資格が取得可能になった現在の勤務校では、その資格取得に向けての準備等に立ち上げから関わることができ、教員としてやりがいを感じています。また、生徒が興味・関心をもって授業に臨んでいる態度をみると、うれしい気持ちになります。自分の経験を生かして教鞭がとれることや、看護系に進学する生徒の進路指導を担当できることは私のやりがいとなっています。



○ 教員を目指す方へのメッセージ

40歳を過ぎてからの転職で、教員として適応するまでにかなりの時間がかかりました。私は看護師としての経験はありますが、教員としての教育を受けてきたわけではないので、一からのスタートであり、他の先生方にたくさん教えていただいたり、授業を見学させていただいたりし、どのように指導したらよいかを勉強しました。

今思うと、教員の道に入ってから3年間は大変でしたが、すでに中学生であった二人の息子が、私の仕事を理解してくれており、頑張ることができたと思っています。転職は自分自身だけの問題ではなく、家族の理解も必要であると思っています。教員になり8年目になりましたが、まだまだ新人だと思いながらやっています。教員は生徒・保護者・学校・地域などたくさんの方々に関わる仕事あり、とても大変ですが、これからの未来のある子供たちと関わることができる魅力ある仕事です。



＼ 高等学校教諭(福祉科)のとある1日 / ※副担任、部活動副顧問の場合(勤務時間は参考例です。)

8:20	出勤	
8:20~ 8:55	メールチェック、一日のスケジュール確認 等	
8:55~ 9:45	授業準備(非常勤講師との打合せ、教室環境の整備)	
9:55~10:45	授業準備(教材研究を中心に)	○空き時間を使って、授業に向けた準備を行います。一緒に授業を行う非常勤講師とコミュニケーションをとり、スムーズに授業が進められるようにしています。
10:55~11:45	授業①:生活支援技術(3年生)	
11:55~12:45	授業②:生活支援技術(3年生)	
12:45~13:30	昼休み	○後期になると、看護学校/大学を希望する生徒の面接練習が入ることもあります。生徒と面接ノートを作成したり、実際に面接練習を行ったりします。
13:30~13:45	清掃	
13:45~14:35	授業③:社会福祉基礎(2年生)	
14:45~15:35	一日の授業の振り返り、教材研究	○生徒の様子や取組状況を確認します。また、部活動(JRC部)の指導や校務分掌に係る業務を行います。
15:35~16:50	部活動指導、校務分掌に係る業務	
16:50	退勤	